



平成30年7月24日

平成29年度科学技術人材育成費補助事業「卓越研究員事業」における卓越研究員の公表について

平成29年度科学技術人材育成費補助事業のうち「卓越研究員事業」において、平成29年度の卓越研究員として決定した者（計72名）について、お知らせいたします。

○事業の目的

卓越研究員事業は、新たな研究領域に挑戦するような優秀な若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できるような環境を実現するとともに、全国の産学官の多様な研究機関において活躍し得る若手研究者の新たなキャリアパスを提示することを目的として、平成28年度より開始し、平成29年度が2年度目となります。

卓越研究員は、世界水準の研究力を有し、新たな研究領域や技術分野等の開拓が期待されております。また、産学官の研究機関で活躍し得る意欲や柔軟性を有しており、我が国の科学技術や学術研究、科学技術イノベーションの将来を担う優れた研究リーダーになることが期待されております。

○平成29年度の卓越研究員について（別紙参照）

平成29年度の卓越研究員として決定した者（計72名）について、氏名、雇用研究機関、研究分野及び研究テーマは、別紙1に記載のとおりです。

なお、卓越研究員を受け入れた研究機関のうち、卓越研究員が安定かつ自立して研究を遂行するための経費[※]について、支援を希望する研究機関に対しては、補助金交付の申請を受け、交付のための手続きを行い、各研究機関において補助事業が開始しています。

（※卓越研究員一人当たり、

研究費 600万円上限/年（2年間）、研究環境整備費 300万円上限/年（1~2年度目（3~5年度目は200万円））

<担当> 文部科学省 科学技術・学術政策局

人材政策課 人材政策推進室

課長補佐 浅井 雅司

基礎人材企画係長 佐々木 京助

基礎人材推進係長 荒田 孔明

電話：03-5253-4111（内線4021）

03-6734-4021（直通）

1. 事業概要

卓越研究員事業は、新たな研究領域に挑戦するような若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できるような環境を実現するとともに、全国の産学官の研究機関をフィールドとして活躍し得る若手研究者の新たなキャリアパスを提示することを目的とした事業です。

本事業のスキームは、以下のとおりです。

- ① 最初に、文部科学省が卓越研究員の受入れを希望する研究機関からポストを募集し、提示されたポストのうち要件を満たすものを文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のホームページを通じて、一覧化して公開します。
- ② それと並行して、若手研究者に対し、卓越研究員の公募を行い、厳正な審査を経て、文部科学省が卓越研究員候補者を決定します。
- ③ その後、卓越研究員候補者と一覧化公開されたポストを提示した研究機関が個別に交渉（当事者間交渉）を行い、各研究機関において新たに安定かつ自立した研究環境を得た（当事者間交渉が完了した）卓越研究員候補者について、文部科学省が卓越研究員として決定し、必要に応じて、卓越研究員を受け入れた研究機関に対して、一定の期間、研究費等の支援を行います。

なお、平成28年度からの主な変更点は、以下のとおりです。

(1) 研究者の申請要件の変更

博士号取得後の研究機関での研究経験について、直近5年間の研究実績（博士号取得者は博士論文を含めてもよい）に変更。

出産・育児により研究を中断した研究者に対する年齢要件の配慮。

(2) 研究者の審査方法の変更

申請者の負担軽減、審査の効率性の観点から、研究機関と候補者との当事者間交渉において面接等が行われていることを配慮し、面接審査を省略。

(3) 卓越研究員候補者の有効期限の変更

平成29年度の卓越研究員候補者が、平成30年度の卓越研究員事業に参加することを希望する場合、再度、平成30年度に本事業へ申請し、新たに候補者となることが必要に変更。

2. 公募期間及び申請件数

平成29年1月23日（月）から公募を開始し、同年2月20日（月）までに、大学や公的研究機関、民間企業などから204件（72機関）のポスト提示にご協力いただき、同年3月6日（月）に文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会のHPを通じて一覧化公開しました。（別紙2参照）

その後、平成29年3月21日（火）より、申請者（研究者）からの申請を受け付け、同年4月25日（火）までの間、公募を行った結果、517名の申請者（研究者）から申請書の提出を受け付けました。

3. 選考方法及び決定件数

本事業に係る審査等業務の支援を行う独立行政法人日本学術振興会において、有識者によって構成される卓越研究員選考委員会を設置し、本事業の審査要領に基づき、審査を行い、同委員会の審査結果を踏まえ、平成29年7月3日（月）に文部科学省において、170名を卓越研究員候補者として新たに決定しました。なお、平成28年度に決定した卓越研究員候補者のうち、平成29年度卓越研究員事業への継続を希望した者77名を加えて、247名が平成29年度の卓越研究員候補者となりました。

その後、卓越研究員候補者と一覧化公開されたポストを提示した研究機関において当事者間交渉が行われ、平成29年度末までに各研究機関において新たに安定かつ自立した研究環境を得た旨、文部科学省に報告された卓越研究員候補者72名について、平成29年度の卓越研究員として決定しました。

4. 審査の主な観点

上記委員会による審査の主な観点は、以下のとおりです。

- (1) 我が国の科学技術や学術研究、科学技術イノベーションの将来を担う優れた研究リーダーとなることが期待できること
- (2) 世界水準の研究力を有し、新たな研究領域や技術分野の開拓が期待できること
- (3) 研究目的及び研究計画が明確かつ具体的であり、優れていること
- (4) 産学官の研究機関で活躍し得る意欲や柔軟性を有すること

5. 平成30年度の実施状況

平成30年度に新たに一覧化公開されたポストは、151ポスト（※）であり、申請をした若手研究者は、494名でした。申請者に対して、上記委員会において厳正な審査を実施した上で、平成30年度卓越研究員候補者を決定しています。

（※）平成30年6月11日現在。

平成29年度卓越研究員決定者一覧

別紙 1

通番	氏名	機関名	部署名	分野	卓越研究員としての研究テーマ
1	井上 賢一	東北大学	大学院理学研究科	化学	高空間分解能を備えた界面選択的分光法による反応ダイナミクスと界面構造の相関の解明
2	大塚 朋廣	東北大学	電気通信研究所	工学	固体微細材料中局所電子状態の精密高速観測・制御による新機能材料、デバイスの創出
3	熊谷 明哉	東北大学	材料科学高等研究所	工学	機能性発現原理の解明に向けたナノエレクトロケミストリーの確立
4	藤原 翔	山形大学	学術研究院	化学	気相燃焼合成法による金属クラスターを担持した窒化物・亜量論酸化物の調製
5	大音 隆男	山形大学	学術研究院	工学	プラズモニック結晶の誘導放出機構と低閾値ナノレーザの開拓
6	前田 知貴	茨城大学	フロンティア応用原子科学研究センター	総合	有機・無機ナノ材料-ポリマー間相互作用の理解と機能性ナノ複合材料への応用
7	藤井 直人	筑波大学	体育系	総合	熱中症予防にむけた熱放散反応の末梢メカニズムに関する研究
8	宮本 崇史	筑波大学	医学医療系	医歯薬学	『時空間的情報コードによる細胞内シグナル伝達経路の制御メカニズムの解明および その人工的な操作技術の開発』
9	宮腰 昌利	群馬大学	食健康科学教育研究センター	農学	微生物のRNAネットワークの解明と相補性による揺らぎの応用
10	藤原 亜希子	群馬大学	食健康科学教育研究センター	農学	農業害虫と共生細菌における必須な共生分子機構の解明とそれらの相互作用を利用した持続可能な新規防除技術の開発
11	川畑 泰子	群馬大学	社会情報学部	総合	デジタルアーカイブスを用いたメディア情報の計算社会科学的分析
12	勝田 哲	埼玉大学	大学院理工学研究科	数物系科学	超新星および超新星残骸の全波長観測で迫るIa型超新星の親星・大質量星の終末期進化・宇宙線加速機構
13	川村 隆三	埼玉大学	大学院理工学研究科	総合	キネシン駆動型運動界面を利用した細胞の動的力学環境構築
14	木村 健太	東京大学	新領域創成科学研究科	数物系科学	物質中の電気磁気結合に起因する新現象と新機能の開拓に関する研究

15	大平 豊	東京大学	新領域創成科学研究科	数物系科学	初期宇宙での宇宙線加速機構と磁場生成機構の解明
16	石本 健太	東京大学	数理科学研究科	数物系科学	受精ダイナミクスの生命現象数学
17	木内 健司	東京大学	理学系研究科物理学専攻	数物系科学	超伝導検出器による宇宙背景放射の精密観測で切り開くインフレーション宇宙の解明
18	深谷 雄志	東京大学	分子細胞生物学研究所	生物学	非コードDNAによる遺伝子発現制御機構の解明
19	奥山 輝大	東京大学	分子細胞生物学研究所	生物学	自閉症スペクトラム障害における、社会性ニューラルアンサンブルの情報処理機構の解析
20	中川 桂一	東京大学	工学系研究科	総合	先端的可視化技術で拓くインパルシブ・メカノバイオロジー
21	伊藤 勇太	東京工業大学	情報理工学院	総合	光学シースルー頭部搭載型ディスプレイと視覚適応画像処理による視覚拡張技術の開拓
22	平田 修造	電気通信大学	情報理工学研究科	化学	従来の分子光励起応答の制約を打破する革新的な分子励起サイエンスに関する研究
23	新竹 純	電気通信大学	情報理工学研究科	工学	生物模倣に基づく移動ロボットの先進化
24	比嘉 紘士	横浜国立大学	大学院都市イノベーション研究院	工学	沿岸域における陸域と水域を網羅的に捉えるリモートセンシング手法の開発
25	岡本 暁	新潟大学	自然科学系（農学部）	農学	長距離移行性ペプチドを介した地上部と地下部間の情報伝達に関する分子機構の解明とその応用
26	溝尻 瑞枝	長岡技術科学大学	産学融合トップランナー養成センター	工学	3次元マイクロデバイスの直接描画プロセスの創成と応用
27	有元 誠	金沢大学	理工研究域数物科学系	数物系科学	X線・ γ 線で明らかにする重力波候補天体ガンマ線バーストの起源
28	真塩 麻彩実	金沢大学	理工研究域物質化学系	化学	水圏環境におけるPdの分布と挙動に関する研究
29	黒田 浩介	金沢大学	理工研究域自然システム学系	工学	双性イオン液体による植物バイオマスのワンポット連続高温発酵

30	高橋 広夫	金沢大学	医薬保健研究域薬学系	総合	生命科学ビッグデータ解析法のための基盤技術開発と生命現象解明・診断・創薬への応用
31	神谷 嘉美	金沢大学	人間社会研究域附属 国際文化資源学研究中心	総合	複層構造をした文化財に対するトータル分析法の開発と保存処置の理論構築に関する研究
32	山野 友義	金沢大学	医薬保健研究域医学系	医歯薬学	免疫寛容のメカニズムを利用した自己免疫疾患の治療法、ガン免疫療法の確立
33	諸白 家奈子	信州大学	農学系	農学	ライブイメージング法を駆使した卵子形成・発育機構の解明
34	木塚 康彦	岐阜大学	研究推進・社会連携機構 生命の鎖統合研究センター	総合	神経疾患糖鎖の発現機構・作用原理の解明とケミカルツールの開発
35	高棹 圭介	京都大学	理学研究科	数物系科学	フェイズフィールド法を用いた曲面の発展方程式の解析と偏微分方程式の幾何学的特徴付け
36	古瀬 祐気	京都大学	ウイルス・再生医科学研究所	医歯薬学	新興感染症を理解する統合的研究
37	下野 昌宣	京都大学	医学研究科	総合	マルチスケールコネクトーム研究の展開
38	藤井 啓祐	京都大学	理学研究科	数物系科学	量子情報に立脚した物理・情報・工学の本質的融合と物理学フロンティアの開拓
39	小川 敬也	京都大学	エネルギー科学研究科	工学	持続可能な社会に資する科学技術の構築
40	外岡 大志	京都工芸繊維大学	機械工学系	工学	知能を備えたマイクロ・ナノロボットの構築
41	石井 佑弥	京都工芸繊維大学	繊維学系	工学	分子構造制御に立脚したナノファイバオプトエレクトロニクスの研究
42	武村 紀子	大阪大学	データビリティフロンティア 機構	総合	能動的センシングに基づくヒトの内部状態推定
43	服部 吉晃	神戸大学	工学研究科電気電子工学専攻	工学	有機電子デバイスの特性改善へ向けた有機・無機ヘテロ接合の研究
44	永井 裕崇	神戸大学	医学研究科薬理学分野	医歯薬学	社会ストレスによる脳組織の超微細な細胞生物学的変化とその機序・役割の解明

45	南 憲吏	島根大学	エスチュアリー研究センター	総合	音響手法を用いた藻場の時空間的变化に対応した生態系サービスの評価
46	川添 貴章	広島大学	学術院（大学院理学研究科）	数物系科学	放射光高温高压変形実験によるマントル遷移層・下部マントルの粘性率の決定
47	中山 智喜	長崎大学	水産・環境科学総合研究科	総合	新規計測装置の開発と実験・観測研究によるエアロゾルの気候・環境影響の解明
48	谷本 祥	熊本大学	大学院先導機構	数物系科学	高次元数論幾何の研究
49	圓谷 貴夫	熊本大学	大学院先導機構	工学	合金系が示す長周期積層欠陥構造の形成メカニズムの解明：第一原理計算による研究
50	三浦 恭子	熊本大学	大学院先導機構	医歯薬学	長寿・がん化耐性齧歯類ハダカデバネズミにおける積極的老化／がん化抑制機構の解明
51	吉田 昭介	奈良先端科学技術大学院大学	研究推進機構	生物学	“ペットボトルを食べる細菌”の環境適応戦略に学ぶプラスチックバイオコンバージョン技術の開拓
52	小池 貴之	大阪市立大学	大学院理学研究科	数物系科学	複素部分多様体近傍の函数論的研究とその応用
53	岡田 健司	大阪府立大学	工学研究科	工学	多孔性金属有機構造体の配向薄膜による電子/光機能性の開拓
54	増山 直輝	大阪府立大学	工学研究科	総合	Lifelong Machine Learningを基にしたデータマイニングに関する研究
55	山平 真也	聖路加国際大学	共同研究ラボラトリー	医歯薬学	PEG脂質の結合力精密制御に関する基礎、および実用化研究
56	林地 のぞみ	順天堂大学	医学研究科	医歯薬学	サルコメア合成機構の解明に基づいた新規的筋萎縮治療法の開発
57	清家 弘治	産業技術総合研究所	地質調査総合センター 地質情報研究部門 海洋環境地質研究グループ	数物系科学	生痕化石の古環境復元ツールとしての有用性を検証する：あらゆる堆積環境から採取した現世海洋コア試料の解析
58	武居 淳	産業技術総合研究所	エレクトロニクス・製造領域 フレキシブルエレクトロニクス 研究センター フレキシブルデバイスチーム	工学	弾性体基板表面のシワ構造制御による高機能ストレッチャブル/フレキシブルデバイスの基盤技術の創製
59	秋田 一平	産業技術総合研究所	エレクトロニクス・製造領域 ナノエレクトロニクス研究部門 ナノCMOS集積グループ	工学	脳活動計測デバイス・解析に基づく脳型チップのAI循環型開発エコシステム創出

60	宋 軒	産業技術総合研究所	情報・人間工学領域 人工知能研究センター データプラットフォーム 研究チーム	総合	UrbanBrain: A Deep Learning Platform for Next Generation Urban Management
61	梅山 大樹	物質・材料研究機構	国際ナノアーキテクニクス 研究拠点	化学	「拡張ペロブスカイト」で可能にするフェルミ準位の可逆的制御
62	今村 岳	物質・材料研究機構	国際ナノアーキテクニクス 研究拠点	総合	伝達関数法を用いた人工嗅覚センサシステムの開発と実用化
63	井上 梓	理化学研究所	統合生命医科学研究センター 融合領域リーダー育成プログラム	医歯薬学	Dissecting the molecular basis of oocyte-mediated transgenerational inheritance
64	小槻 峻司	理化学研究所	計算科学研究機構	総合	データ同化とAIを活用したリアルタイム大気・水文予測技術の革新
65	井上 芳幸	理化学研究所	数理創造プログラム	数物系科学	理論と観測から解き明かす巨大ブラックホール物理
66	Gubler Philipp	日本原子力研究開発 機構	先端基礎研究センター	数物系科学	Extending the flavor frontier - strange and charm quarks in nuclear matter
67	山本 慧	日本原子力研究開発 機構	先端基礎研究センター	数物系科学	スピン波によるスピン輸送現象の微視的解析
68	仲田 光樹	日本原子力研究開発 機構	先端基礎研究センター	数物系科学	マグノン絶縁体スピントロニクスの新展開： 強相関トポロジカル量子機能の開拓
69	橋本 直	日本原子力研究開発 機構	先端基礎研究センター	数物系科学	反K中間子原子核の性質解明へ向けた研究
70	小堀 峻吾	株式会社ユーグレナ	機能性研究課	農学	任意のRNAを高感度に検出するRNAデバイスの開発
71	松永 洋平	株式会社HIROTSUバイ オサイエンス	中央研究所	生物学	線虫を用いた高感度なガン診断方法の確立
72	横野 牧生	日本製粉株式会社	イノベーションセンター	農学	植物の先祖返りで植物工場のコストの壁を打ち破る

平成29年度卓越研究員事業における一覧化公開ポストを提示した研究機関

●国立大学（40機関）		ポスト数
1	北海道大学	1
2	北見工業大学	1
3	弘前大学	1
4	岩手大学	1
5	東北大学	5
6	山形大学	3
7	茨城大学	1
8	筑波大学	2
9	宇都宮大学	1
10	群馬大学	7
11	埼玉大学	2
12	千葉大学	2
13	東京大学	12
14	東京農工大学	1
15	東京芸術大学	1
16	東京工業大学	3
17	電気通信大学	3
18	横浜国立大学	1
19	新潟大学	3
20	長岡技術科学大学	2
21	金沢大学	12
22	山梨大学	2
23	信州大学	1
24	岐阜大学	1
25	浜松医科大学	1
26	名古屋大学	1
27	京都大学	9
28	京都工芸繊維大学	2
29	大阪大学	3
30	神戸大学	2
31	島根大学	2
32	広島大学	3
33	山口大学	1
34	九州大学	1
35	九州工業大学	4
36	長崎大学	2
37	熊本大学	3
38	宮崎大学	3
39	鹿児島大学	3
40	奈良先端科学技術大学院大学	1
計		110

●公立大学（2機関）		ポスト数
1	大阪市立大学	3
2	大阪府立大学	3
計		6

●私立大学（4機関）		ポスト数
1	早稲田大学	1
2	東海大学	1
3	順天堂大学	1
4	聖路加国際大学	1
計		4

●国立研究開発法人（4機関）		ポスト数
1	産業技術総合研究所	12
2	物質・材料研究機構	3
3	理化学研究所	9
4	日本原子力研究開発機構	3
計		27

●企業（21機関）		ポスト数
1	三菱電機	1
2	日立製作所	2
3	富士通研究所	1
4	第一三共	4
5	ユーグレナ	1
6	NEC	2
7	JFEスチール	10
8	日本電子	1
9	住友電気工業	15
10	ソニーコンピュータサイエンス研究所	1
11	パナソニック	7
12	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ	2
13	リバーフィールド	1
14	HIROTSUバイオサイエンス	1
15	日本製粉	1
16	キリン	1
17	Karydo Therapeutix	1
18	ダン計画研究所	1
19	シンクサイト	1
20	味の素株式会社	1
21	出光興産株式会社	1
計		56

●社団・財団法人（1機関）		ポスト数
1	公益財団法人がん研究会	1
計		1

●全体（72機関）		ポスト数
計		204

卓越研究員事業

平成29年度予算額 : 1,510百万円
(平成28年度予算額 : 1,000百万円)

背景・課題

- 今後、**生産年齢人口の減少**が一層進む中、貴重な高度人材である**若手研究者の活用**を社会全体で無駄なく効率的に図ることが必要であり、**若手研究者と産学官の研究機関とのマッチングを促進**し、科学技術イノベーションの推進と我が国の持続的発展につなげていくことが必要。
- 特に、**産学官の研究機関が優れた若手研究者に安定かつ自立した研究環境を提供**し、自主的・自立的な研究に専念できるようにしていくことが我が国の研究力の向上を図る上で重要。

事業概要

【事業の目的・目標】

- 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的な研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を行う。

【事業の概要】

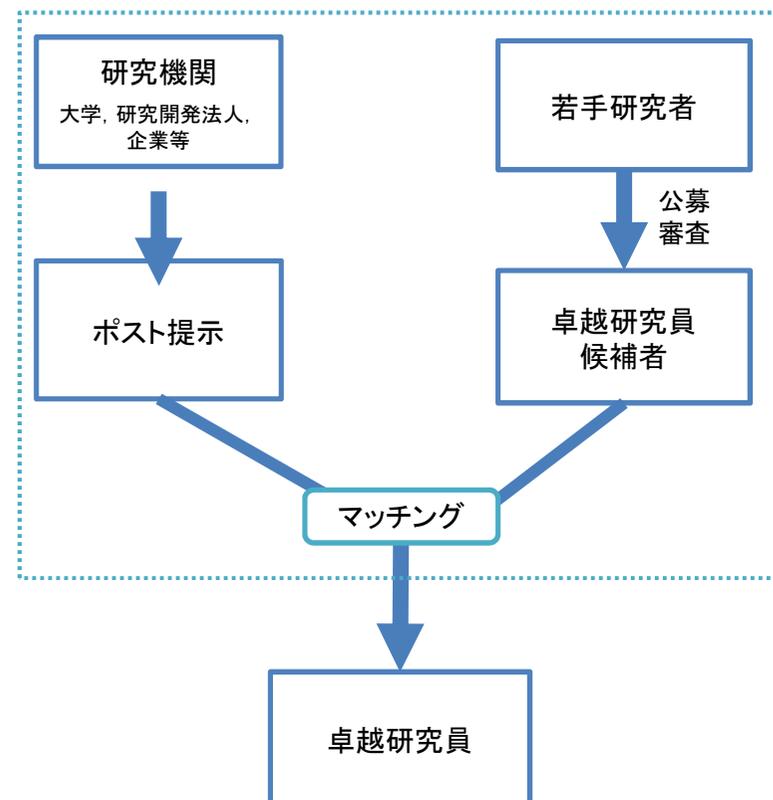
- ①大学、企業等の研究機関からポストを募集
- ②若手研究者を公募の上、審査により卓越研究員の候補者として選定
- ③候補者と研究機関との当事者交渉
- ④当該研究者を受け入れることとなった研究機関に対して、研究者の研究費や研究機関における研究環境整備費を支援

【事業スキーム】

- ✓ 支援対象 : 国公立大学, 国立研究開発法人, 民間企業等
- ✓ 人数 : 100名程度(平成29年度新規分)
- ✓ 支援内容 : 若手研究者の研究費→年間6百万円(上限)／人(2年間)※
研究環境整備費→年間2～3百万円(上限)／人(5年間)

※ 人文・社会科学系は、それぞれ3分の2程度の額を支援予定

【事業イメージ】



卓越研究員事業の実施状況

<平成28年度>

	計	大学・国立研究開発法人等	企業
①一覧化公開ポスト数	317	221	96
②卓越研究員申請者数	849	823(※1)	26(※1)
③卓越研究員候補者数 (②のうち審査を経て候補者に決定された人数)	176	173(※1)	3(※1)
④卓越研究員決定者数 (③のうち一覧化公開ポストに就いた人数)	87	82	5
⑤一覧化公開ポストに受け入れられた 卓越研究員候補者以外の若手研究者数	34	31	3

※1：第一希望のポストが当該機関種であった人数
(申請時に、申請者全員に対し希望ポストを調査)

2

<平成29年度>

	計	大学・国立研究開発法人等	企業
①一覧化公開ポスト数	204	148	56
②卓越研究員申請者数	517	(328(※2))	(7(※2))
③卓越研究員候補者数 (②のうち審査を経て候補者に決定された人数)	170	—	—
④卓越研究員決定者数 (③のうち一覧化公開ポストに就いた人数)	72	69	3
⑤一覧化公開ポストに受け入れられた 卓越研究員候補者以外の若手研究者数	21	19	2

※2：第一希望のポストが当該機関種であった人数
(申請時に、任意のアンケートにより希望ポストを調査)